

Vol. 158号

Colony Tokyo

# コロニーとうきょう

2015(平成27)年  
1月1日発行

社会福祉 東京コロニー  
法人  
〒165-0023  
東京都中野区江原町 2-6-7  
TEL 03-3952-6166  
FAX 03-3952-6664  
<http://www.tocolo.or.jp/>  
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 33 作者 星野祥代さん『無題』(詳しくは17頁をご覧ください。)

## 時評

2014年度上半期総括事業報告書

とびっくす

法人の主な動きから

法人本部・コロニー中野・アートビリティ・トーコロ生活支援センター(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・中野区中野福祉作業所(〒165-0027 中野区野方1-35-8)・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター機能開発室・トーコロ情報処理センター事業部(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0041 葛飾区東金町3-19-3(仮移転先))・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・城南島工場(〒143-0002 大田区城南島4-3-9)・トーコロ青葉ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ、Ⅲ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)

# 時評

## しっかりした 対応を

理事長 中村 敏彦

その人らしい自立した生活ができるように支えることとし、社会連帯の考え方に立った総合的な支援が行えるよう、措置制度、社会福祉事業、社会福祉法人などの見直しを行って

明けましておめでとうございます。前回は引き続き、社会福祉法人のあり方について触れたいと思います。今回は、具体的に何が指摘されていて、当法人として何が必要なのかを考えてみます。年頭から深刻な話をすることをご容赦ください。

### 1. 背景と課題

社会福祉法人改革は、2000（平成12）年の社会福祉基礎構造改革に始まり、目前に迫っている超高齢社会に備えて、国民の期待に応えられるだけの社会福祉の共通基盤を作り上げることを目的としています。その基本は、個人が住み慣れた地域において、人としての尊厳をもって、

2014（平成26）年7月に社会福祉法人の在り方等に関する検討会は、社会福祉法人の現状に対して、現行制度の抱える諸問題を整理し、今後わが国の福祉の重要な担い手として国民の期待に応える存在であり続けるための改革案をまとめ報告書を出しました。中間報告の中ではホールディングカンパニー制度の導入等を含めて大幅な見直しも検討されてきましたが、社会福祉事業への積極的な展開を示唆することに留め、現段階では、具体的な結論を回避した内容になったと受け止められます。そして、9月4日、厚生労働省は社会保障審議会福祉部会に、社会福祉法人の経営組織に関する制度改正の考え方を示しました。そこでは、運営の公益性を保つため、現行制度では任意となつている評議員会の設置を義務付けた上で、理事などの選任・解任や報酬の決定といった議決権を持たせること、その権限を強化すること、現行法令で定められていない理事長や理事の義務や責任などを法令上で明記することなど、

経営組織に関して具体的な考え方を提案しています。

### 2. \* 具体的な5つの指摘

#### (一) 地域ニーズへの不十分な対応

新たな地域ニーズの顕在化を背景に、社会福祉法人においても制度で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる先駆的、開拓的取組の実施が推進されてきたが、これらの取組が一部の社会福祉法人にとどまっていることや、取組を実施している法人であっても、利用者や地域住民から十分な評価を得られにくくなっていることにより、社会福祉法人の役割や存在意義が広く認識されていない状況がある。

#### (二) 財務状況が不透明

財務諸表等の開示について、福祉サービスの利用を希望する者その他の利害関係人の閲覧請求に応ずることが義務とされるなど、事業運営の透明性の確保が必要とされている。他方、近年の公益法人制度改革等により、他の非営利法人における情報公開が格段に進んでいるにもかかわらず、社会福祉法人については、財務諸表等を幅広く国民一般に公表することは義務とされておらず、自主的に公表している法人は半数程度にとどまっている。このことが、国民

の理解を阻害したり、内部留保についての説明責任が充分になされていないと言われている。

#### (三) ガバナンスの欠如

他の公益法人よりも高い義務を負う特別の法人制度として創設されているが、公益法人制度改革等により他の非営利法人についての制度改革が進んだことから、社会福祉法人の組織体制は、他の法人制度と比較してガバナンスを確保する仕組みとして充分とは言えなくなっている部分がある。また、一部の社会福祉法人では、創設者等の理事長が、あたかもオーナーであるかのように経営を行ったり、高い公的性格を持つ法人制度でありながら、現実には私物化とも取られかねない運営が行われたりしているという批判がある。

#### (四) 優遇税制、活用不足の内部留保

制度や補助金、税制優遇に守られて高い利益率を有しており、これを社会福祉事業等への積極投資や地域還元することなく、内部留保として無為に積み上げているとの批判がある。この点については、「介護老人福祉施設等の運営及び財務状況に関する研究事業」（平成25年3月）により、そもそも内部留保を蓄積しているといつても他の社会福祉事業に投資されている部分は既に活用されており、残りについても将来の施設の建て替

え費用として合理的に説明可能な部分が多いことなど、必ずしも内部留保の額だけで一律には論じられないことに留意が必要である。しかし、いわゆる内部留保を巡る議論は、社会福祉法人が自らの経営努力や様々な優遇措置によって得た原資をもとに、社会福祉事業の充実や社会または福祉サービスとして還元しないのであれば、その存在意義が問われるという点にある。

#### (五) 他の経営主体との公平性

公平性（イコールフィッティング）については、2013（平成25）年10月以降の規制改革会議において取り上げられ、多様な経営主体が参入する介護・保育事業等における社会福祉法人と株式会社等との役割を巡って、新規事業者の参入規制の緩和、社会福祉法人と株式会社やNPOとの間の財政上の優遇措置の見直しについて議論が行われた。規制緩和については、高齢者施設全体が、介護保険制度の導入によって多様化し、新たな役割が求められているのではないかという意見がある。一方で、低所得で対応の難しい方を積極的に受け止めている特別養護老人ホーム（社会福祉法人）や、生活困窮者等への対応を実践している社会福祉法人が一部にとどまり、社会福祉法人が株式会社等の他の経営主体

と異なる役割を果たしていることが国民に伝えられていないという指摘もあった。（\*2014年7月社会福祉法人あり方検討会報告書より抜粋）  
指摘が必ずしも正論とは思いますが、このような指摘があることを承知しておかなければなりません。

### 3. 社会福祉法人の現状

2012（平成24）年度において、社会福祉施設を経営する社会福祉法人の数は約1万7千法人となっており、1990（平成2）年度の約1万法人と比較してこの20年間で約17倍に増加しています。一方で、介護保険制度が導入された2000（平成12）年度と2011（平成23）年度の社会福祉施設の経営主体の状況は、福祉サービスや経営主体の多様化が進み、社会福祉法人が経営する福祉サービス事業は微増で、他の経営主体の経営数が大幅に増加しています。重要なのは多様化が障害のある人々にしつかり応えられているかという点です。社会福祉事業を実践する特別な法人として、求められるものも大きいと理解しなければなりません。経営を継続させることを重要視して、本来の目的を見失っていないかということを問われているのではないのでしょうか。

優遇税制や内部留保の活用については、他の事業者ではできないことへの自主的な積極的事业展開が求められているのであり、運用基準にさらに弾力性を持たせることで、より社会福祉事業に貢献することが必要だと思われまます。社会福祉法人改革は、法人格を否定しているわけではなく、特別な法人への期待も多く含んでいるとことを重く受け止める必要があります。すべてを一括りに問題視するのではなく、明らかに間違った運営をしている法人には厳しく対応することを求め、併せて法人自らが、社会福祉法人ならではの事業展開を実施することが重要です。

根拠法は社会福祉法（旧法名・社会事業法）であり、戦後60余年にわたる歴史を背景に改めて現在を概観した時、今もなお、少子・高齢化問題、若者たちのひきこもり、低所得者の増加、雇用率の低さ、障害者への差別や偏見、子供の育てにくさ、安心して迎えられない老後、地域コミュニティなど、様々な課題が残されています。むしろ深刻化しているといっても過言ではないでしょう。この改革が経済再生の一環で産業競争力強化を目指す社会保障・福祉の削減だとすれば、国は大きな間違いを犯すこととなります。社会保障は国の財

政状況や政局に左右されてはいけな  
いと思います。

### 4. 当法人の課題整理

社会福祉法人の持つ本質や方向性、あり方について検討するとき、当事者視点や当事者の意見を取り入れることは言うまでもありません。結核回復者達が創設した当法人の事業は、福祉施策に適用させるまでに20余年を要し、制度で対応できないことには、自らに課題を課し、福祉事業を支えてきた経緯があります。

改めて現状を見てみると、一部の就労事業では採算性が維持できず、福祉事業に頼らなければならぬ現実があります。本来、障害がある人の生活を支えなければならぬ事業が、逼迫した状態にあるのです。就労事業の赤字は、あつてはならないことだということを、一人ひとりが認識し、全力で改善しなければなりません。老朽化した事業所の建て替えなどの大事業は待ったなしです。中期事業計画を見直し、福祉サービスの充実とともに、当事者主体・企業性・民間性の意味を再考し、具体的な改革につなげていくことが喫緊の課題です。今年も厳しい年になると思いますが、皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。

# 2014年度 上半期総括事業報告書

## 1 はじめに

本年度は、わが国も国連障害者権利条約を批准し、障害福祉の新たなスタートとなる年度となりました。この条約の基本的な考え方は人権尊重の視点で作られたもので、「私たちのことを私たち抜きで決めないで！」というスローガンに象徴されるように、当事者の意見が反映した条約であることが大きな特徴です。しかし、批准後においても国内の障害福祉は、精神科病棟居住施設への転換問題や65歳を境とした介護保険移行問題、民間企業による就労継続支援A型事業の不適切な運用など様々な問題が後を絶ちません。他の団体と連携して、条約にふさわしい社会環境を整えるための運動を継続したいと思えます。

国は経済再生を何よりも優先しており、4月からは消費税が8%に引き

上げられ、さらに段階的に引き上げることなどの不安要因もあり、本格的な景気回復には至っていません。生活保護費の今年度見通しは3兆7、000億円、世帯別では211万世帯と過去最多の推移となり、大変厳しい状況は続いています。

障害者総合支援法は施行後の3年間の見直し期間を設け、支援区分の見直しや意思疎通・決定支援、精神障害者ならびに高齢障害者支援などの見直しの議論が始まっています。また、持続可能な社会保障・社会福祉制度の再構築のもと、社会福祉法人のあり方についても議論されており、ホールディングカンパニー制度の導入を含めた大幅な見直しや、内部留保については、社会福祉事業への積極的な展開を示唆し、さらには、法人の経営組織に関して、運営の公益性を保つために評議員会の設置義務や、理事などの選任・解任や報酬の議決権

を持たせ、その権限を強化することを法令上で明記することなどの具体的な考え方を示しています。当法人としても施設支援を超えた社会福祉事業への展開を模索しつつ、今後も予想される諸制度改革の動きを敏感に捉え、可能な限り地域の福祉ニーズに対応した運営を目指すこととします。障害者優先調達推進法は、調達指針は出たものの各地方行政では、取組みが遅れているのが実態です。

具体的結果を導くためには関連事業所からも積極的な提案をしていく必要があります。

東日本大震災への復興支援のために、JDF(日本障害フォーラム)、一般社団法人ゼンコロと連携して、2年間にわたり支援活動を行ってきました。JDFいわて支援センターでは支援を一旦保留としましたが、新たにJDFみやぎ支援センターの要請を受け、県内の島嶼部の仮設住宅訪問

## 2 上半期事業結果と年度方針の達成状況

調査活動を支援するため、10月より活動できるよう準備を進めました。

上半期の事業結果は、在籍者の推移では表1に示す通りであり、総人数789名(前年度778名)で11名増、内障害者は501名(前年度491名)で10名増、障害者比率63.5%(前年度63.1%)で前年度に引き続き障害者数が増加しました。在籍ではない契約者・登録者(表2)890名を加えると1,680名の人達に責任を負う組織となっております。就労移行を支援する事業では、上半期での一般就職者は(表1・2合計)43名となりました。法人全体の経営結果(表3)は、上半期末の総括決算損益推移表に示す通り、事業全体を通して厳

しい状況が続いています。

本年度方針は中期事業計画に基づき9点を重点課題とし、これらを達成することで、真に障害のある人の立場に立った経営が実現できるものとして、全力を挙げて取り組んでいます。中間時点ではいくつかの課題を残しつつも、下記のとおり結果となりました。

- (1) 組織を支えるのは人という基本事項を再認識し、経営や福祉の専門性を身につけるための教育、研修の充実を図り計画に基づき積極的に取り組んでいます。
- (2) 新会計基準による精度の高い会計管理に努め、各拠点の財務については、常任理事会等で議論し、法人全体としては、可能な限り法人内部の資金活用比率を高め、外部からの借入金圧縮を図っています。
- (3) 老朽化が著しい事業所の建替えは、国庫補助（施設整備費補助）申請のための必要な手続きを行い、現在東京都の審査を受けています。昨年申請した東京都葛飾福祉工場の建替えに要する国庫補助は残念ながら不認可となりましたので、東京都とは今後の対応について協議しています。
- (4) 不採算事業の経営改善の取組みには努力していますが、具体的結果にはまだ至っていません。
- (5) 法人の規程等、事業所ごとに異なる運用があるものには、事業所ごとの特色は尊重しつつ、既存の規程の見直しも含め段階的に着手しています。
- (6) 東日本大震災を教訓に設置した統合防災委員会の活動は、危機管理マニュアルの策定や各事業所の防災用品の備蓄をほぼ完了するなど一定の成果を残しました。
- (7) 各拠点の地域活動においては、それぞれ自治体との連携を深め情報交換を密にしなが、各拠点の特徴を活かした障害福祉サービス事業の充実に努めています。また、地域の福祉関連ネットワークに積極的に参画することで、地域の重要な社会資源になり得ることを目指し、地域ニーズには常に前向きに検討しています。特定相談支援事業は運営が厳しい事業ではありますが、各自治体からの要望に応え、すでに実施していた1拠点に2拠点を加えて開始しました。
- (8) 障害者福祉の向上のために、関

新規事業については、建替えに伴い試行的に実施できるよう検討に入りました。

連省庁ならびに、東京都、各市区自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、NPO法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルブセンター、東京都セルブセンターなどにおいて積極的に役割を果たしています。

(9) 当法人の経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重要視して運営にあたっています。財務状況はもとより、提供する障害福祉サービスの実質向上のために、第三者評価機関の審査を受けるとともに、苦情解決第三者委員制度の実施や広報紙、ホームページ等による情報公開等に真摯に取り組んでいます。

### 3 個別経営状況

福祉サービス事業の向上を実現するために、就労支援事業の改善に全力を挙げて取り組んでいます。消費税増税前の駆け込み受注の影響や、福祉工場の法人立化に伴った他民間企業との受注・価格競争は激化しており大変厳しい結果となりました。また、基幹事業である印刷事業や縫製事業は、依然として厳しい状況が続いていますが、営業部門など協同活動の可

能な部門は組織を超えて連携し、少しずつ実践に移して取り組んでいます。

#### (1) 法人本部(事務局)

法人全体の財務の適切な運用や事務局業務に支障をきたさないように、各拠点の事務処理部門と情報共有を目指しています。とりわけ経理処理については、本来必要であった積立金や雇用調整金などの取り扱いにおいて、会計顧問の指導を受け、可能な限り適切に運用できるよう見直ししていくこととします。プライバシーマークの認証取得法人として、その維持・向上に各事業所と連携して取り組んでいます。

- (2) 福祉事業本部(東久留米氷川台寮、えはらハイツ、生活支援センター他) 既存事業を着実に遂行するとともに、就労支援事業所の所在する地域のニーズに応じてグループホームの増設を検討しており、期中は西東京市にある物件の準備を進めることができました。今後生活支援の充実を目指し段階的な拡充を検討していきます。中野区で指定を受けた特定相談支援事業は、区内の法人内事業所と連携して個別計画策定を進めています。
- (3) IT事業本部(事業部、職能開発

室、DMC) 事業部では新たな委託事業を受注することができましたが、DMCを含めて価格競争による受注単価の引き下げは大変厳しいものとなっております。事業本部内の連携をさらに充実させ、公益事業ならではの取組みに努力しています。法人内ではネットワーク技術等を介して各事業所に関わり、横断的に役割を果たしました。職能開発室では民間のハローワーク業務の認定法人としての役割や、受託事業である東京都障害者IT地域支援センターの事業を継続することができました。加えて、就労移行支援事業の在宅利用というテーマで、厚生労働省の助成金を活用した研究会をスタートさせました。

(4) 社会就労事業本部(仲町就労支援事業所、中野福祉作業所、コロニー中野、コロニー東村山、青葉ワークセンター) 指定管理事業所の管理・運営の充実を目指しています。東村山市障害者就労支援室やコロニー障害者計画相談支援室「ふきのとう」での役割を發揮するとともに、既存事業の運営では福祉サービスのさらなる向上に努力しています。印刷関連事業は厳しい状況が続いていますが、固定費や運送費用などを見直し、徹底して経費削減に取り組んでいます。コロニー中野の老朽化による建て替え計画は、平成27年度施設整備費補助の申請を東京都へ提出しました。

(5) 福祉工場事業本部(東京都葛飾福祉工場、東京都大田福祉工場) 東京都葛飾福祉工場では区の要請を受け、特定相談支援事業を開始し、就労継続支援A型事業では在宅就労で重度障害者の雇用を実現しています。消費税増税に伴う影響や市場競争による受注減少は、以前から厳しかった製袋事業に加え、防災事業にも影響が開始されました。引き続き障害者優先調達推進法を活用して売上高、加工高の確保に努めます。民営化に伴う建替え計画は、東京都葛飾福祉工場では国庫補助対象から外れたため東京都との協議に入り、東京都大田福祉工場では、国庫補助(施設整備費補助)申請の準備を進めるとともに旧宿舍棟の改修工事に入りました。

表1 在籍者の推移

自2014年4月1日 至2014年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			上半期末 在籍者数
		増員	減員		自己都合	一般就労	疾病、その他		
雇用就労者	110	7	(0)	3	(0)	3	0	0	114
	(88)	(3)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(90)
事業・施設の利用者	340	32	(0)	27	(0)	11	13	2	345
その他	41	5	(0)	4	(0)	0	0	4	42
障害がある就労者等(計)	491	44	(0)	34	(0)	14	13	6	501
	(88)	(3)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(90)
障害がない就労者	287	10	(2)	9	(2)	5	0	2	288
合計	778	54	(2)	43	(2)	19	13	8	789
	(88)	(3)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(90)

(注) 1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の( )で再掲している。  
 2) 在籍者数には非常勤嘱託医を含む。  
 3) 在籍者数にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生を含む。  
 4) 増員および減員の各右欄には法人内異動を( )で表記している。  
 5) 前年度末在籍者については、重複計上されていた嘱託医1名を修正し、「その他」に計上されていたパート就労者6名を「雇用就労者」に計上し直している。

**表2 参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況**

2014年度上半期末及び上半期中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル雇用者等	一般就職サポート者
福祉事業本部	121			
中野障害者計画相談支援室 (ころまっぷ)	<sup>*3</sup> 23			
IT事業本部	40	<sup>*1</sup> 5		
社会就労事業本部		<sup>*2</sup> 1		
東村山市就労支援室	267	24	1	—
コロニー障害者計画相談 支援室 (ふきのとう)	<sup>*3</sup> 235	—	—	—
アートビリティ	<sup>*4</sup> 200	—	—	—
東京都葛飾福祉工場障害者 計画相談支援室	<sup>*3</sup> 4			
計	890	30	1	<sup>*5</sup> 293

\*1 在宅教育修了者からの一般雇用2人、職業紹介事業からの一般雇用3人

\*2 コロニー中野：「東京しごと財団」委託訓練修了者からの一般雇用

\*3 計画相談契約者数

\*4 契約者以外の作品利用が行われた数も含めているため約としている。

\*5 事業本部、事業所を超えて全体でサポート(当法人からの2007.4～2014.9までの就職者)

**表3 上半期末貸借対照表(簡易版)**

2014(平成26年)9月30日現在

(単位：円)

	前年度決算	本年度中間決算	増減		前年度決算	本年度中間決算	増減
現金預金	2,404,846,413	2,276,975,335	△ 127,871,078	買掛債務	1,293,417,245	517,404,515	△ 776,012,730
売掛債権	1,601,403,293	744,900,764	△ 856,502,529	借入金	592,052,000	590,555,000	△ 1,497,000
その他	3,796,347,407	3,943,977,316	147,629,909	その他	1,017,043,341	1,118,825,964	101,782,623
				純資産	4,900,084,527	4,739,067,936	△ 161,016,591
合計	7,802,597,113	6,965,853,415	△ 836,743,698	合計	7,802,597,113	6,965,853,415	△ 836,743,698

# くすぴくす

## T O P I C S

### コロニー中野

#### 今日は 「プチ避難所生活体験デー」

2014年は、広島市の大規模土砂災害、御嶽山の噴火、大型台風がいくつも上陸したりと災害が多い一年でした。

そこで、コロニー中野の不就労日(12月6日)を「プチ避難所生活体験デー」と題して、避難所生活の心構え、避難所ではどういう食事が食べられているのか、家族や友達の安否はどのようにしたらわかるのか(災害用伝



段ボールで作った仕切り

言ダイヤル)、段ボールによる仕切り生活の体験、起震車体験など、みんなで体験し勉強する日にしました。

まず、11時から12時までは座学「避難所生活の心得」と題し、テキストを作り「譲り合い」・「助け合い」・「ルールを守る」という事を中心に勉強をしました。また、障害者(主に身体)のトイレ問題も、3・11東日本大震災以降、各避難所に身体障害者用の仮設トイレを準備しているところが増えていることも確認しました。中野区では第2避難所という比較的障害者が生活しやすい所へ優先的に移れることも学びました。

昼食は、非常食を食べてみようという事で、葛飾福祉工場のご協力をいただき、アルファ米の「五目ごはん」「山菜ごはん」、フリーズドライの「けんちん汁」を炊き出しという形で提供しました。みんな順番に並んで、座学「避難所生活の心得」の内容を実践していました。感想を聞くと「美味しかった」「今の非常食はここまでできているんだね」と、おかわりをする人もいました。

食事の後は、NTTの177「災害用伝言ダイヤル」の利用方法を勉強したり、段ボールで作った仕切りのあるスペースを体験したり、寝っ転がったり、新聞紙でスリッパ、キッチン



起震車体験

ペーパータオルでマスクを作ったりと思い思いに過ごす時間もありませんでした。

最後は中野区に依頼していた起震車「グラットさん」が登場し、参加者のほとんどの人が震度7を体験し、「あゝ怖かった」「そうでもなかったよ」など、色々な感想を聞きましたが、「キヤーカー」言っていたのは利用者よりも従業員の方だったのを感じていたのは私だけでしょうか。

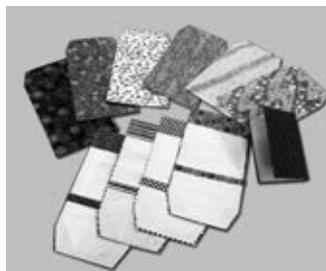
「プチ避難所生活体験デー」は今日1日で終わりますが、実際に避難所生活を送らざるを得なかったとき、今日のことを少しでも活かさればと思います。

物品販売係 係長 金子倫久





新たに入荷したリネンウォーター



新作自主製品・文庫本カバー

かつ継続的な課題としていろいろな案を検討しています。今回の研修は、拡販プロジェクトにとってはより一層のモチベーションをもって積極的に活動する良い契機となりました。この研修と前後して季節に合わせた店内装飾、ここまで検討段階にあったコーヒーやリネンウォーターなどの新商品を相次いで入荷・販売開始するなど、いくつかを具体化しています。また「自主製品開発プロジェクト」では新しい自主製品『文庫本カバー』の製作、販売を開始しました。今後も「買い物を楽しんでいただけ

る店舗」を目指して従業員一同継続的な取り組みを続けていきたいと考えています。初めてご来店される方も、以前ご来店いただいた方も改めて、ぜひ(十五や)にご来店ください。

営業担当 落合桂太

## コロナー東村山

### ティーボール大会、惜しくも準優勝！

11月8日(土)に行われた関東健康福祉ティーボール大会に今年も参加しました。雨の心配もありましたが、早稲田大学所沢キャンパスグラウンドで無事開催されました。毎年早稲田大学ソフトボール部の皆さんが準備に協力いただいているとのこと、今年も整備された会場で楽しく参加することができました。

毎年参加しているこの大会、今回こそは！と燃え盛る闘志を胸に臨みました。

そもそもティーボールとはなんぞや？という方に簡単な説明をさせて頂くと、基本的に野球に近いスポーツですが、「ピッチャーの投球に対してのバッティングではなく、あらかじめティーにセットされたボールを打ち、打席については必ず一巡して

その回の攻撃は終了となる」という特徴的なルールがあります(野球との細かな違いは多々あります)。このルールのため、障害のある方や高齢の方、また小さなお子さんまで楽しめるスポーツとなっております。車いすの方がバッターで代走をたてる方法もあります。

私達コロナー東村山の戦績はというと、惜しくも準優勝でした！

攻守ともに皆、大活躍で全4回戦を戦い抜き、決勝戦では前大会覇者との戦となりました。一步も引かずに健闘を見せましたが最後の最後で逆転負けを喫してしまいました。「私のエラーが皆の足を引っ張ってし



まっつて・・・、もう引退です(某所長)と涙ながらの敗戦の弁でしたが、大丈夫来年もきつと参加していただけたと思います。

しかしそれでも準優勝！体はボロボロになりながらも大健闘の余韻に浸りつつ、来年こそは優勝！と意気込みを新たにするのでした。(ちなみに私は日頃の運動不足がたたり、筋肉痛でしばらく動けなくなりました)

営業部営業1課営業2グループ 益田洸哉

## トコロ青葉ワークセンター

### 楽しかった日帰り旅行

トコロ青葉ワークセンターの恒例行事として、秋の旅行があります。旅行の行き先は、利用者と従業員が加入する互助会が中心になって内容を考えていきます。毎年の行事なので、行き先をどこにするかが悩みの種ですが、互助会の役員(もちろん利用者も入っています)が旅行会社の提案を基に意見交換しながら、群馬県沼田市の原田農園が候補に上がりました。内容は、パフェ作り体験とりんご狩りです。

現地確認のため下見に行くと、かなり時間に余裕がある感じがしまし



りんごをたくさん剥いていただきました

た。それなので、花園インターチェンジそばにある「花園フォレスト」というスイーツを中心にしたお土産やさんに寄ることになりました。

行き先が決まれば準備です。バスのなかで配るお菓子やドリンク類の選定には利用者役員にも入ってもらい、意見を出し合いながら用意をしました。旅行会社との折衝などはどうしても従業員役員がすることになりますので、その他の部分で利用者役員に活躍してもらおうよう工夫をこらしています。

11月に入ると利用者との会話も旅行のことが増えてきます。天気心配でしたが、当日は予報どおりの快晴！懸念していた寒さもさほどではなく、絶好の旅行日和となりました。関越自動車道で現地に向かうのですが、車窓から見える青空と赤城山、榛名山をはじめ群馬の山々が壮大で

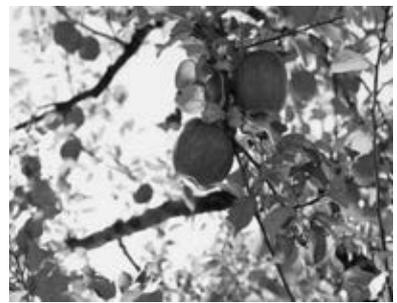
ました。バス内ではカラオケに興じる利用者も多く、作業のときの表情とはまた違う表情で自慢の歌声を聞かせてくれました。

ポリューム満点の昼食をいただきました。各々でパフェを作りましたが、初めての方も多く、かなり好評だったようです。その後、りんご狩りになります。昼食後にも関わらず、みなさん食べる、食べる！りんごを剥いてくださる係員さんがいるのですが、「みんなよく食べるね〜！」と驚いていました。

帰りの花園フォレストではスイーツやパンのお土産を買う方も多く、大賑わいでした。

体調不良を訴える方もおらず、楽しい旅行となりました。至らない点が多々あったと思いますが、皆様の協力で無事に終えることができ、ほっとしています。

互助会委員長 高塚孝太郎



## 職能開発室

### メルマガ「ITまなびー東京」が100号を迎えました

東京都の委託で運営している東京都障害者IT地域支援センターは、今年の秋に11年目を迎えました。当センターは、都内にお住まいの障害をお持ちの方やご家族をはじめ、医療、教育、自治体、企業の方などに広くご利用いただいております。WEBを通しての情報配信にも力を入れております。

2010年3月より隔週金曜日に配信しているメルマガ「ITまなびー東京」は、そのひとつで、今年11月に



100号を迎えました。

東京では、福祉団体や当事者団体さんなどが、IT関連の貴重なセミナーや講習会を日々開催しておられます。しかしながら、この宝のようなイベントが、気付いたときには終わっていたり、忙しい日々の中で埋もれてしまうことが多々あります。そんな状況を少しでも減らす手立てとなれば、と始めたのがこのメルサービスで、「障害とITに関連した最新ニュース記事」、「都内で開催されるセミナーやイベント情報」、「障害別のIT講習会や就労支援のためのIT講座」、また「IT支援者向けの講座」などを可能な限り調べ上げ、まとめてリストとして配信しております。

現在では200名を超える登録があり、障害当事者の方をはじめ、自治体や教育関係の方などからも好評の声をいただいております。

100号を機に、今後も一層充実した新鮮な内容をお届けしてまいります。

当センターのホームページからご登録いただき、就労や余暇活動に是非ご利用ください。

※ ITまなびー東京登録ページ  
[http://www.tokyo-itcenter.com/500jgyo/itc\\_manabi.html](http://www.tokyo-itcenter.com/500jgyo/itc_manabi.html)

職能開発室 今津葉子

## 東京都葛飾福祉工場

### 隅田川とお台場を満喫！ 日帰り親睦旅行

東京都葛飾福祉工場交友会が毎年企画している親睦旅行は、事業所が完全民営化・多機能型の福祉サービス事業所へと移行した2012年度より、関東近辺の観光スポットめぐりやグルメを楽しむといった日帰りプランとなっています。これは、民営化以降、各々が働く職場も散在していくなかで、参加のしやすさ、近場というアクセスの良さや手軽さなどに主眼が置かれてきたものと思われまます。在宅就労推進のセクションに身を置く私自身、日々離れた自宅で働く従業員の「貴重な機会」という声を聴くにつれ、こうした行事の重要さを再認識しています。毎年100名以上が参加、3台の大型貸切バスが堂々と並んで走る姿は、この時期の風物詩ともいえます。

親睦旅行の企画・準備は、年度初めに各部門からの推薦で交友会役員が選出され、その役員会を中心に進められていきます。今回は10月の平日、「お台場での一日」と題し、隅田川ライン下り、日航ホテル東京でのパ



ベキュー、そして大江戸温泉物語・東京ジョイポリスのいずれかを選択し、各々で楽しむといった盛りだくさんの内容となりました。浅草栈橋からは貸切船に乗り換え、隅田川の景色の移ろいを楽しみながらお台場ではパーベキューに舌鼓を打ち、人気スポットでは自由気ままに楽しみ、穏やかな天気恵まれた秋の一日をともに満喫いたしました。この場を借りて、4月から計画と準備を重ね、旅行中も走り回っていた役員会の皆さんに、あらためて感謝いたします。

る者同士があらためて親睦を深め、ともに旅を楽しむ場という位置づけと考えると、交通アクセスのバリアや情報収集の点で課題も見られました。私自身も役員に任せきりで、旅行中も親睦を十分に深めたとはいえない反省があります。また、諸事情により参加できなかった方々もいます。こうした課題は旅行後アンケートにも反映されていますが、その年の役員のみならず交友会全体、ひいては事業所全体のこととして省みていく必要があります。またそうすることで、楽しかったこと、良かったことも共有され、いつまでも残っていくものと思います。

「旅は非日常を楽しむこと」とは以前からよく言われていますが、個人的には旅の充実、充実した日常があつてはじめて成り立つものと思っています。事業所は昨年より、金町工場棟をはじめとして大規模な建替工事を開始し、職場も部門ごとに仮移転、一時的に離れ離れになり、今後しばらくは不便なことも出てくるでしょう。こうした環境でもなお、楽しかった今回の旅行を励みに仕事に努め、そしてまたともに旅行を楽しむ機会を得たいと思います。

#### 防災営業部防災システム課

一丁在宅就労推進係 主任 吉田岳史

## 東京都大田福祉工場

### 大田福祉工場コロニーフェスティバルを振り返って

11月1日、大田福祉工場は今年もコロニーフェスティバルを行いました。

毎年開催してきたものの、今後3年間は工場の建て替え工事により開催出来ないため、今年は是が非でも成功させたい年でした。お客様のため自分達のためにも、三年分盛り上げ楽しんでほしい、三年後に再開した時また来ようと思って頂けるようなフェスティバルにしようという目標のもとに、実行委員会ならびに従業員・利用者一同、一生懸命に準備をして参りました。

前回の反省を生かすためにも、今回は例年よりも早くから実行委員会を設置して会議の回数等を増やしました。前回やむなくバザーを廃止しましたが、お客様の強い要望により復活させることにし、実行委員会設置日から従業員へバザー品の収集を呼びかけました。その後も各セクションに張り紙を行い、実行委員のこまめな呼びかけによりたくさんのお客様を集めることが出来ました。



食品関係では前回試みた中華まんを今回はやめて、お客様の年齢層や食べやすさを考慮し、新たにぶっかけうどんを採用致しました。また、例年とは違い今回は本工場の隣にある東京都大田通勤寮の皆さんが屋台で出店してくださいました。大田通勤寮の皆さんと一緒にフェスティバルを行える、これは大変喜ばしいことでした。今後も一緒にすることが出来たらこれほど嬉しいことはないと思います。いつも素敵なプリザーブドフラワー等で出店してください。コロナ中野のみなさん・防災商品を提供してください。葛飾福祉工場のみなさん、誠にありがとうございました。

フェスティバル当日はあいにくの天気であることかと思われましたが、準備の際は幸いにも雨は止み、

なんとか開催することが出来ました。その後また降り出して不安に駆られました。たくさんのお客様が来場してくださり、なんて大田福祉工場は愛されているのだろうと胸が熱くなりました。中でも、ぶっかけうどんを美味しい美味い！と何杯もおかわりして下さったお客様の笑顔は大変眩しく、生涯忘れることはないでしょう。今後もたくさんの方々に愛され続けますよう、従業員・利用者一同これからも精進して参ります。

フェスティバル実行委員長  
太田知宏

### 福祉事業本部

#### 「ころ・ころ」のケーキで誕生会！

中野第二江原寮(えはらハイツ)では入居者の方のお誕生日には、ケーキを買って皆さんでお祝いをしています。いつもは街のケーキ屋さんでカットされたケーキを人数分購入することが多いのですが、「ころ・ころ」では事前にお願いでするとケーキを作って下さると聞いて、今回は誕生

日ケーキを注文してみました。どんな形がいいか、クリームや飾り付けの希望など、こちらのリクエストを細かく聞いてくださったので、生クリームたっぷりのホールのケーキで仕上がりイメージはかわいらしい感じになるようにお願いして、後は当日のお楽しみです。

できあがったケーキはリクエスト通り、丸くて生クリームたっぷり、スポンジにはさまれたクリームはピンク色でかわいらしい感じのケーキでした。「〇〇さんおめでとう！」と書かれたチョコプレートがケーキの横幅いっぱいあって、市販のケーキでは見たことが無いくらい大きなサイズでもインパクトがありました。主役の方もケーキを見るとニコニコとうれしそうな表情になって、お皿にケーキとチョコプレートのプレートを見せて渡すと、とても喜んでくださいました。普段は夕食が終わるとすぐに居室に入っ



まうことが多い方なのですが、その日はケーキを食べ終わってからも鼻歌を歌いながらしばらく食堂に座っていたらそうです。その翌週も夕食時にハッピーバースデーのメロディを口ずさんでいたそうです。普段はあまり自分の感情を表に出さないタイプの方なので、こんなに喜んで頂けるとは予想外でしたが、ころ・ころにお願いして良かったと思いました。

誕生日ケーキがとても好評だったので、今年のクリスマス会のケーキもころ・ころでお願いすることになりました。今回も事前にリクエストを聞いて頂けるとのこと、入居者の方の希望を参考にしながら、どのようなケーキにするか決める予定です。入居者の方も毎年楽しみにしてください。今年もころ・ころのケーキで例年より一段と楽しいクリスマス会になることでしょう。入居者の皆さんもどんなケーキになるか楽しみにしています！

\*「ころ・ころ」はコロナ中野にあるホットドックのお店で手作りパン等の美味しいお店です。

えはらハイツ担当  
主任 後藤しおみ

# 法人の主な動きから

## 評議員・理事・監事・ 第三者委員の選任

2014年11月27日に開催された第76回評議員会及び第264回・265回理事会において、2014年11月28日から二年間の任期で、新たな評議員・理事・監事・第三者委員が選任されました。

引き続き東京コロニーの事業に対するご理解とご支援、ご指導をよろしく  
お願い申し上げます。

理事・評議員 中村 敏彦  
(理事長)

理事・評議員 武者 明彦  
(常務理事、社会就労事業本  
部長)

- |   |                                  |                             |                              |                                     |   |                     |
|---|----------------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------------|---|---------------------|
| 理事・評議員 鬼頭 克介<br>(IT事業本部長、福祉工場<br>事業本部長) | 理事・評議員 加藤 留美子<br>(福祉事業本部長)       | 理事・評議員 高橋 毅<br>(社会福祉法人常務理事) | 理事・評議員 松村 正一(新任)<br>(公認会計士)  | 評議員 柿沼 一彦<br>(元東村山市社会福祉協議会<br>事務局長) | 評議員 外川 勝久<br>(利用者家族代表・開発設計<br>コンサル会社理事) | 評議員 飯屋 暢聡<br>(医師)   |
| 理事・評議員 富澤 みち子<br>(前コロニー東村山総務部<br>長)     | 理事・評議員 加藤 留美子<br>(福祉事業本部長)       | 理事・評議員 高橋 毅<br>(社会福祉法人常務理事) | 理事・評議員 松村 正一(新任)<br>(公認会計士)  | 評議員 柿沼 一彦<br>(元東村山市社会福祉協議会<br>事務局長) | 評議員 外川 勝久<br>(利用者家族代表・開発設計<br>コンサル会社理事) | 評議員 飯屋 暢聡<br>(医師)   |
| 評議員 朝日 雅也<br>(県立大学教授)                   | 評議員 小川 直子<br>(大手商社環境・CSR推進<br>部) | 評議員 湯田 正樹<br>(就労移行支援事業所所長)  | 評議員 鈴木 妙子(新任)<br>(社会福祉法人理事長) | 評議員 吉村 謙次(新任)<br>(東京都葛飾福祉工場副所<br>長) | 監事 山根 伸右<br>(弁護士)                       | 監事 加藤 一志<br>(公認会計士) |
| 評議員 岸本美恵子                               | 評議員 中川理<br>(敬称略)                 | 評議員 中川理<br>(敬称略)            | 評議員 中川理<br>(敬称略)             | 評議員 中川理<br>(敬称略)                    | 苦情解決<br>第三者委員 朝日 雅也                     | 苦情解決<br>第三者委員 朝日 雅也 |

苦情解決  
第三者委員 山根 伸右

苦情解決  
第三者委員 湯田 正樹(新任)

(敬称略)

※今期をもちまして、

理事・評議員 高山真三

評議員 岸本美恵子

評議員・苦情解決第三者委員 中川理  
(敬称略)

におかれましては、任期満了につき、  
ご退任されました。長きに渡りご支援・  
ご指導をいただきありがとうございました。  
(事務局)

## 中堅従業員研修の実施

10月28日に中堅従業員研修を実施し、係長クラスを中心に25名が参加しました。合同会社ユナイテッドの北島氏を講師に迎え、参加者は丸一日職場を離れて集中して研修に臨みました。

主な内容は、

①事業所のSWOT分析

(強み・弱み・機会・脅威)



②職場のコミュニケーション分析  
 (高揚感・安心感を高め、緊張感・不安感を減らすには)  
 などです。参加者は5つのグループに分かれて、異なる事業所、異なる職種の人たちと議論を重ね、成果をポスター発表していきました。  
 研修前にはアンケートとして東京コロナや仕事への思いを綴っていたが、研修後にも明日からの決意をアンケートに記していただきました。研修前より研修後の方が、目標をしっかりと見据えた前向きな意見が多かったのが印象的でした。  
 各職場の上長からも、同様の研修

を毎年実施するよう望む声が上が  
 り、次年度以降も継続して実施して  
 いくこととなりました。

事務局 岩田真紀

### 発達障害のある方への 支援研修

12月3日、東京都成人(大人)発達障害当事者会「イイトコサガシ」代表の冠地(かみち)さんを迎え、発達障害のある方への支援研修を実施しまし  
 た。

冠地さん  
 はご自身の  
 体験も踏ま  
 えつつ、発  
 達障害のあ  
 る方の生き  
 づらさにつ  
 いて、身振  
 り手振りを  
 交え情熱的  
 にお話しく  
 ださり、一  
 同引き込  
 まれるよう  
 に講義に聞  
 き入りまし



た。

10月には東村山市障害者就労支援室(東京コロナ受託事業)にて、2回に渡り「イイトコサガシワークショップ」を実施していただき、こちらも大盛況。「試した時点で大成功!」を合言葉に、コミュニケーションを苦手と自認する方たちも勇気をもってワークにトライしていました。

2015年は、イイトコサガシワークショップを東京コロナの事業所のプログラムとして取り入れるべく、冠地さんにファシリテーター養成講座をお願いしています。  
 これからの展開が楽しみです。

事務局 岩田真紀

### 東日本大震災 被災地支援報告

#### 宮城県島しょ部 仮設住宅訪問調査

東京コロナでは一般社団法人ゼンコロナを通じて、被災地の障害者支援のため2011年より毎年JDF(日本障害フォーラム)の支援センターへ人員を派遣してきました。  
 4年目の2014年は、JDFみやぎ支援センターで行っている仮設

住宅訪問調査活動において、調査に手が回らない島しょ部について支援の依頼があり、10月に約1週間、4名の従業員が宮城に赴きました。調査の目的は、仮設住宅を利用している被災障害者を訪問し、現在置かれている状況や困っていることなどを聞き取り、障害者支援機関や行政機関へ情報提供し課題解決につなげることです。

今回、調査に参加した従業員より現地の様子を報告いたします。

\*

私達が訪れたのは女川町から小型船で30分ほどのところにある、出島。もともと漁業が盛んで、山には山菜や松茸などもあり、島民から「宝の島」と呼ばれていました。被災後、坂の上まで迫った白い壁のような津波に多数の住宅・漁船が飲まれ、島民たちは高台にある小・中併設校へと避難しましたが、避難物資が不足。SOSの狼煙を上げた島民たちは、やむなく県内の避難所へ離散することとなりました。

全島避難後、小中学校は廃校。子育て世代がいなくなり、400人から70人程度に人口は激減しました。50代は若手、60、70代が多く、独居者も年々増えているようです。9月



廃校となった小中学校の校庭

と転居が完了、隣の地区も建設を開始。私たちが訪れたのはちょうどその時期でした。

もともと女川町（本土）との交通手段が一日3便の定期便しかなく、急な坂道の多い環境のため、障害のある方が暮らすことは困難です。70名中、当事者は震災後に脳梗塞になった高齢の女性と、パーキンソン病の女性の2名のみでした。これまで住んでいた障害のある方たちは対岸の「うみねこ園」など入所施設の利用や、内陸部への転居を余儀なくされたようです。

漁業の島という性質上、島民たちには助け合いの精神が根づいており、獲った魚や、被災後に始めた家庭菜園の野菜などを近隣におすそ分けすることが日常となっています。避難所生活では民宿の女将が布団や衣類を提供し、炊き出しを担当しました。仮設住宅で生活していた際は孤立者

が出ないよう、行政区の区長の奥様を中心に支援団体協力のもと、手芸やレクリエーションを実施しました。3年と8ヶ月という歳月をかけ、何も残っていない真つさらな状況の中から主体的に活動し、乗り越えてきた物語を笑顔で語る姿に何度も胸を打たれ、人間の強さ、優しさを実感しました。

「いろいろな方の支援でようやく生活を立て直すことができ、復興住宅に移り住み、自立しようとしている。これからは支援ではなく交流に、遊びに来てほしい」という言葉が大変印象的でした。来年は私も、遊びに行きます。

コロニー中野 支援課 室屋まり



仮設住宅(手前)と復興住宅(奥)

## 書籍のご案内



### 常に先駆け走り抜く

― 障害のある人と共に生きた

丸山一郎

定価1,944円(税込)

渡辺忠幸 著

発行 一般社団法人ゼンコロ

東京都葛飾福祉工場の元所長で、東京コロニーの監事も務められた故・丸山一郎さんの生涯を綴った本が一般社団法人ゼンコロより出版されました。

東京コロニーとの関わりはもちろんです、丸山さんの足跡を知ることによって日本の戦後の障害者福祉の歴史を丸ごと理解することができます。

丸山さんの常に前向きな考え方や、前例や固定観念にとらわれない豊かな発想、ゆるぎない信念のもとで壁をぶち破っていく行動力、どれをとっても後に続く私たちが学ばなければならぬことばかりです。ぜひ一読ください。

（事務局）

ご注文は、ゼンコロホームページ  
<http://www.zencolor.jp/> または  
 電話（03-3395216166）  
 にてお問い合わせください。

# アートビリティ Artbility ギャラリー 33

## 『無題』

ほしの さちよ  
星野 祥代さん

1976 年生まれ。千葉県在住



今回のアートビリティギャラリーは、星野祥代さんの『無題』をご紹介します。

木版という手段を用いながら、温かくほのぼのとした、素敵なティータイムが表現され、その時の空気感が今にも伝わってくるようです。大人っぽく、オシャレなところも星野さんの作品ならではの雰囲気です。

星野祥代さんは本年度、第26回アートビリティ大賞※1)にて、その圧倒的な使用実績と、作品を使用いただく際のデザインとしての可能性、また木版画の構成・技術面における芸術的評価も高く、見事にアートビリティ大賞を受賞されました。

また、昨年来、星野さんは「大人が楽しい、字の無い絵本の創作にも挑戦しております」とのこと。一点の作品からも物語を感じる星野さんの作品ですが、絵本の刊行も楽しみです。今後のますますの活躍が期待されます。

※1) アートビリティ大賞:毎年、1年間で総合的に活躍した作家3名に各3賞(アートビリティ大賞、アートビリティ大賞・日立キャピタル特別賞、アートビリティ大賞・アサヒビール奨励賞)が贈られる。特にその中のアートビリティ大賞は、その年の「顔」となるべき作家を、大賞作家として表彰する。選考基準は、登録作品の水準と作家活動全般に加え、アートビリティへの貢献度、クライアントの使用状況等も考慮した上で決定される。

木版による制作をおこなっている。洗練されたデザインと温かみのある作風が特徴。

2008年 いつもの場所 いつものかたち展 (千葉) 2人展。

2009年 染+陶+版=5人展 (千葉) グループ展。

2011年 エイブル・アート・アワード展 (東京) 個展。

2012年 東京国際ブックフェア グループ出展。

2013年 「第25回アートビリティ大賞」にてアサヒビール奨励賞受。

2014年 「第26回アートビリティ大賞」にてアートビリティ大賞賞受。

<http://www.artbility.com/>

■アートビリティ…1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。アートの分野において、障害者の才能は健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。現在は、登録作家約200名、登録作品数約4,000点、年間使用作品数は300点を超えます。2002年4月、アートビリティと改称。

## ご寄附のお礼

(2014年6月～2014年11月 総額 6,460 千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2014年 6月 三菱商事株式会社 様

2014年 8月 三菱商事株式会社 様

2014年 7月 宮田 久央 様

2014年 11月 伊藤忠エネクス株式会社 様

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

# 東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ  
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山  
<http://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー印刷  
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタルメディアセンター  
<http://www.dmc-net.jp/>



アートビリティ  
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場  
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



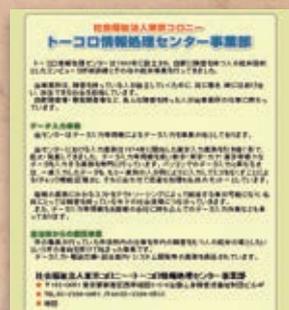
トーコロ情報処理センター職能開発室  
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター  
<http://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場  
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部  
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター  
<http://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム  
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所  
<http://colony.gr.jp/nakatyoushienn/>



中野区中野福祉作業所  
<http://colony.gr.jp/nakanofukusaku/>



コロニー中野  
<http://colony.gr.jp/colonymakano/>